

わ か 草



第79号 令和8年7月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25

東部フェスティバル

6月25日、26日に「世界のお祭り」をテーマに毎年恒例の東部フェスティバルが行われました。

イタリアの「オレンジ祭り」は、町の広場を舞台に貴族・兵士チームと地上の民衆チームに分かれて約500トンのオレンジを本気で投げ合うお祭りです。利用者さまが2チームに分かれて、オレンジ色のボールを綱に向かって投げ、ピサの斜塔を傾けるゲームを行い、白熱した対戦が繰り広げられました。出口には「真実の口」が置かれ、笑顔で手を入れる方や恐る恐る手を入れる方など観光地の疑似体験ができました。

ベルギーの「フラワーカーペット」は、ブリュッセルの世界遺産の広場「グランプラス」で2年に一度行われるイベントです。4病棟の花「こすも

す」「なのはな」「ひなげし」「ちぎゆり」の色の花で「とーぶくん」を作成し展示しました。また、「セルクラースの英雄」のフォトスポットでは花と一緒に写真撮影を行いました。

「東北三大祭り」では、仙台七夕まつり、秋田竿燈まつり、青森ねぶたまつりがフェスティバルを熱く盛り上げました。仙台七夕まつりの吹き流しの飾り、秋田竿燈まつりのちようちんを展示し、その下で「きりたんぼ」の香り体験、青森ねぶたまつりの掛け声とねぶたのプロジェクションマッピングなど、五感を刺激する内容で楽しめました。

インドの「色の祭り（ホーリー）」は、春の訪れを祝い色粉・色水をかけ合うお祭りです。「光の祭り（ディワリ）」ではカラフルな布の中を移動する体験をしたり、プロジェクターで映し出された映像などでお祭りを体験しました。



今回は外部から二つの団体をお招きしました。

NPO法人「みんなのことは」は音楽を通して豊かな心を育てたいと活動されています。「みんなのことは」の皆様がオーケストラのウィーン地方の曲など4曲を演奏し、楽器を持った利用者さまと一体になり大いに盛り上がりしました。

「日本フラメンコ協会」からはプロの2名のフラメンコダンサーによるパフォーマンスが披露されました。スペインの音楽に合わせた情熱的なダンスに皆のテンションも最高潮！最後は皆で「オレッ！」とかけ声をかけ大盛り上がりでした。

今年度は外部の方々を招いて、近年の中では規模の大きな東部フェスを開催することができました。利用者の皆様にもご家族の皆様にも世界各国のお祭りを疑似体験し楽しんで頂けたと思います。来年度以降も様々な内容で楽しい企画を計画していきますので皆様お楽しみに！

(3階西病棟 木原)



かもめ分教室入学式

令和8年4月8日に東部療育センター研修室において、かもめ分教室高等部入学式が開催されました。

ご家族や院長先生、副院長先生はじめ、病棟スタッフの皆様、墨東特別支援学校校長、副校長、かもめ分教室の教員が見守る中、高校生活の第一歩を踏み出しました。授業や行事など楽しみながらいろいろな経験を積み重ね、充実した高校生活を送られることを願っています。

(かもめ分教室 光岡)

開設20周年を迎えて

診療部長 荒井 康裕



東部療育センターは2005年12月に開設され、昨年で20周年を迎えました。開設前に長期入所者90名の選定を行うため、重症児者を都内から公募で募りました。当時の記録を見ますと、児童相談所を介して東京都に申し込まれた289名の内訳は幼児30名、学童49名、18歳以上の成人は210名とあります。応募者の約3分の1が18歳未満、残り約3分の2が18歳以上の成人であったことから、この割合を保ち、入所者の選定が行われました。書類、訪問による面会、家族の意思確認等を経て最終候補者90名が決定されました。

2005年12月から長期入所者の受け入れを開始し、翌2006年6月までに全員の受け入れを終了しました。初代院長であった有馬正高先生は、利用者およびその家族がこの施設を利用することで「生きていくよかった」と思える時を過ごせるように、とお考えで当センターを設立されました。受け入れた90名は人工呼吸器装着20名、時に非侵襲的陽圧換気療法を要

当センターにおける長期入所者の平均年齢、かもめ分教室在籍者数の推移

年度		2010	2015	2020	2025
		平成22年	平成27年	令和2年	令和7年
平均年齢(歳)		29.7	33.5	37	40.6
超(準超)重症児者割合(%)		57.7	69.6	78.6	84.3
在籍者 人数	小学部(名)	12	9	4	2
	中学部(名)	11	8	2	3
	高等部(名)	5	9	5	1
	計(名)	28	26	11	6

する者が4名、単純気管切開19名、喉頭気管分離術16名、胃瘻造設29名であり(超・準超重症児者率は約55%)、当時から重症児者に対する処置はかなり普及していたことが伺えます。

長期入所者の平均年齢は2010年で29・7歳(超・準超重症児者割合57・7%)、2015年で33・5歳、2020年で37歳、昨年2025年では40・6歳(超・準超重症児者割合84・3%)と高齢化および重症化が進んでおります。

院内にある都立墨東特別支援学校かもめ分教室の2010年の在籍者数は28名でしたが、年々減少し2025年度は6名となりました(表)。

当センターの統計においても長期入所者の死因の1位は肺炎などの感染症でしたが、2位は重症性腫瘍であり死因の約4分の1を占めるようになっております。腫瘍の増加の原因は繰り返す感染症や胃食道逆流症などの重症児者に特有な危険因子に加えて高齢化が考えられます。毎年、実態調査を実施している日本重症心身

日中活動の様子

2階西病棟

5月のレクリエーションでは、棒倒しを行いました。棒の先には鯉のぼり・クッションボールの山に刺さった棒を倒さない人が勝ちのゲームです。手やマジックハンドを使って、クッションボールを少しずつ抜いていきます。クッションボールの鈴がチリンと鳴り、棒が傾くたびに、ヒヤヒヤどきどき倒してしまっただ人には、こちょこちょの罰ゲーム。大盛り上がりで楽しめました。



(2階西病棟 大島)

2階南病棟



今回は梅雨をテーマにしたムーブメント活動を紹介します。

まずは雨の音を流し、耳を澄ませてよく聴きながら、梅雨の季節を感じていきます。ある方は大型遊具のエアポリンに乗ると飾ってある紫陽花に気づき、視線を向けられていました。また他の方は差した傘に雨粒クッションボールが飛んできたり、霧吹きの水が飛んでくると目を閉じたり目で追ったりしていました。様々な感覚刺激による梅雨を感じることができました。

3階西病棟

3西病棟では、昨年度に引き続き日中活動で利用者さまの強みを活かしたグループ分けを行っています。

今回は、受容・反応が強みの「劇団ひなげし」のグループの様子を紹介します。

「山の音楽家」の音楽を聴いてイメージしたあと、好きな動物のお面を被って、楽器や鳴き声で曲を表現しました。みんなでテンポを合わせて、笑顔いっぱいロバ、ネコ、犬、ニワトリの音楽隊となりました。みんなの表情変化が見られて病棟に笑い声が響きました。



(3階西病棟 平井)

3 階南病棟



3 階南病棟では今年の東部フェスティバルにて『インドの祭り』をテーマにアトラクションを行います。今月はみんながその世界観の表現に挑戦中。みなさんそれぞれのスタイルでカラフルな祭りの世界をペインティングやお花紙のガーランドで表現したり、蓄光粘土で光りの祭りの世界を表現したりしています。『世界の祭り』をイメージした東部フェスティバルへの期待感も高まりつつあるようです。

(3 階南病棟 岩崎)

成人通所

4 月は「春を探しに行こう」をテーマに、院外散歩に出かけました。色とりどりの花や新緑の葉っぱ、心地良い風など、各々の春を見つけることができました。

5 月は青空の下、運動会を開催しました。障害物競走ではガタガタ道やクネクネ道を突破し、パンをゲットしたあとは鈴の音を響かせてゴールへ！次の競技は通所内で玉入れです。皆さんの応援が盛り上がる中、2 人の協力プレイで高得点を目指しました。



(成人通所 清水)

乳幼児通所



4 月はスヌーズレン室で桜の映像を使ったお花見を楽しみました。壁に映し出された桜とともに小鳥のさえずりが聞こえてくると、手で小鳥の真似をしてくれました。

5 月はボウリングや運動会など、身体を動かす活動を中心に楽しみました。ボールを押したり布を掴んだり、だんだんと動きが上手になってくるのを見ています。職員も嬉しくなっています。

(乳幼児通所 清水)

活動紹介

今年度は1年間、リハビリテーション科が担当し、活動紹介をしていきます。

第2回目は、心理指導員が入所者を対象に実施しているグループ活動（以下心理グループ）についてご紹介いたします。

心理グループは、参加者同士が同じ活動を共有し、コミュニケーションを楽しむ場となることを目的として実施しています。

現在は、月に1回の開催で、同じメンバーが継続して参加しています。長く活動が続いていることで、参加者同士や職員との関係性が築かれ、安心して参加できる場となっています。

活動内容は、じゃんけんゲームや玉入れな

ど、ルールのあるゲームが中心です。参加者自身が選択すること、ボールや道具を操作すること（操作するものによっては補助的な装置を用いて）など、主体的に活動へ参加することを大切にしています。また、ゲームの内容や進行方法を工夫し、一人ひとりが無理なく参加できるように配慮しています。

ゲームでは、得点が入ると笑顔が見られたり、負けの際に戸惑った表情が見られたりと、さまざまな反応があります。良いプレーをした際は、他の参加者や職員から称賛があります。参加者にとっては達成感や自信につながり、「またやりたい」という意欲を高める機会にもなっています。



(心理指導員 秋本)

写真につきましては、全て掲載の許可をいただいております。

東部あれこれ

春から初夏のセンターの動きです。

今年度も新入職員等を迎えて新年度が始まりました。

【4 月】
かもめ分教室では高等部に1名をお迎えし、8日に入学式が行われました。現在、小学部2名、中学部2名、高等部2名、合計で6名の方が在籍しています。

【5 月】
5 月からバスによる外出企画が始まりました。次回のわか草で外出の様子をお伝えいたします。

(事務長 大野)

【6 月】
17 日に電気設備法定点検を行いました。5 月は共立女子大学と東京有明医療大学の看護実習生、東京慈恵会医科大学の重症心身障害児療育体験実習生を受け入れました。

東部フェスティバルの様子は1面をご覧ください。13日に入所保護者懇談会、15日に通所保護者懇談会を開催いたしました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

【編集後記】

7 月号をお届けします。今年の東部フェスティバルは、いつもの1階フロアが音楽ホールのようになり、音楽やダンスを楽しみました。また、お祭りでは利用者さまにカラーリボンをお渡しする係を担当しましたが、色選別に悩まれる方が多く、思わず両方渡したくなりました。

(広報委員会事務局)

←これまでにわか草
をご覧になった方は
こちらからどうぞ



行事食紹介

今年度は1年間、栄養料が担当し、行事食の紹介をしていきます。

～フェスランチ～

今年の東部フェスティバルのテーマは「世界のお祭り」でした。そこで食事でも世界の味を楽しめるメニューを取り入れました。

25日の昼食はインドの代表的なスパイス料理でもあるタンドリーチキンでした。



ご飯
タンドリーチキン
大根サラダ
マンゴープリン



ティラミス



ご飯
カブチ・
コン・トマ
カリフラワーサラダ
メロセリ

26日はスペインの家庭料理として親しまれているカバリア・コン・トマテ（鯖のトマトソース）を提供しました。

また、24日水曜日のおやつはイタリア発祥のデザート、ティラミスをご用意しました。コーヒーの香りとクリームのがさが好評で皆さまに喜んでいただきました。

看護の日



近代看護の母と称されるフローレンス・ナインゲールの誕生日である5月12日前後には、全国各地で「看護の日」として様々なイベントが開催されています。当センターでは令和8年5月11日は令和8年5月11日13時30分から、近隣にある商業施設SUNAMONにて看護の日のイベントを実施しました。イベントの内容としては血圧測定や、体脂肪測定、皮膚の保湿チェックといった健康チェックのほか、管理栄養士による食事量や飲酒量のアドバイス、摂食嚥下認定看護師による嚥下チェックなどを実施しました。イベントには30代～80



(2 階西病棟 中野)